

高田校区 歴史マップ

水と共に生きた輪中と刀剣の郷高田

1. 奠順社の碑

關門出身の小手川善次郎氏は昭和3年(1928)、地区内に在する広大な宅地、畑地及び高田銀行株券を高田村に公共施設、並びに社会福祉のために寄付しました。村長岡松準平はこのことに感激し「財団法人長順社」を設立しました。この碑は高田公民館敷地内にあります。



2. 水害痕跡表示家屋

昭和18年(1943)9月20日の大洪水の水位を表示しています。



3. 開田記念碑

高田地区は昔から水田は皆無で農業は専ら畑作物で各種の農作物を生産していました。特に牛蒡は「高田牛蒡」として有名でした。昭和33年(1958)昭和井路が完成して初めて水稲が収穫されました。記念碑はこの間の経緯を詳しく記しています。



4. 大乘妙典塔

刀鍛冶高田正次が行平没後500年にあたる享保11年(1726)に追善供養として建立したもので「大乘妙典一字一石萬靈塔」と刻まれています。



5. 紀新太夫行平の墓

行平(1144~1221)は日本古来刀鍛冶界屈指の刀匠で、後鳥羽上皇(1180~1198)の御番鍛冶の一人に選ばれ、また、高田鍛冶の祖で豊後刀の墓をつくった人でもあります。



6. 慈雲山補陀寺(臨済宗)

補陀寺は天平勝宝7年(755)に天台宗の寺院として開かれた高田では最も古い寺です。応徳元年(1084)火災によって堂宇は炎上しましたが、国主大友能直が寺領を寄進し七堂伽藍を建立したといわれています。天正の火災以後臨済宗に改宗し京都妙心寺派に属して現在に至っています。



7. 雨水排水ポンプ場

平成16年(2004)5月に内水対策として排水ポンプが設置されて平成17年(2005)の台風14号でその効果が実証され、今まで苦労していた水門の開閉の心配がなくなりました。場所と能力は 關門に設置、大野川へ毎秒7屯 常態に設置、乙津川へ毎秒9屯



百堂の渡し跡

現在の關門三叉路から東へ進むと大野川に百堂の渡しがありました。乙津川堰ヶ瀬の渡しより下徳丸を通る街道が百堂の渡しへ通じていました。ここでは白牡丹や丹生・佐賀関に通じる重要な街道でした。

8. 水難横死生徒の碑

明治26年(1893)10月14日洪水で横死した児童八名の追悼のために旧高田小学校のあった下徳丸字屋敷に建立され、その後学校の移転に伴って現在の高田小学校の地に移されました。碑文は毛利眞(ささむ)、毛利空桑の3男



学校跡地

高田小学校が現在の地に移るまで、学校は下徳丸字屋敷にありました。当時は高田学校といっていたことが、明治20年(1887)高田尋常小学校と改称しました。教育内容が充実し児童数が増えてくると敷地が狭くなり大正15年現在の場所に移転しました。

鍛冶屋小路

高藤酒屋さん前より東に向かう小路をいいます。その昔上総守平長盛を始め、平姓を名乗る大家家に仕えた数多くの刀鍛冶が住んでいたところでした。

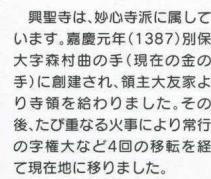
9. 筒井加右衛門の墓(河童伝説)

加右衛門は高田代官所の代官兼惣屋敷で種の運人でもありました。大事な茄子を盗んだ河童を楳で突いたため、翌日百堂の渡しを渡ろうとした加右衛門が多額の河童に襲われあえなく命をおとしたという伝説があります。



10. 鳳林山興聖寺(臨済宗)

興聖寺は、妙心寺派に属しています。嘉慶元年(1387)別保大友森村曲の手(現在の金の手)に創建され、頼主大友家より寺領を給りました。その後、たび重なる火災により常行の字権大など4回の移転を経て現在地に移りました。



11. 大野川高田地区河川防災ステーション

現在上徳丸川添橋横に市の防災対策として防災センターが設置されています。非常の際のために砂、ブロック、その他の、品々が常備され、話所、会議室、各連絡設備、ヘリポート等があり、災害時の活躍が期待されています。(平成11年、(1999)3月24日業務開始)



金谷の渡し跡

上徳丸の道標にしたがって街道を進むと金谷の渡しがありました。現在の川添橋の近くです。ここでは白牡丹へ通じる重要な街道でした。



12. 学校発祥の地

明治6年(1873)8月15日上徳丸中村寿八郎の家塾明倫堂を高田村が引き継ぎ同所中村半次郎の屋敷を借り入れてここに少し明倫学校と命名して開校しました。これが高田小学校のはじまりです。

13. 水害痕跡表示家屋

昭和18年(1943)9月20日の大洪水の水位を表示しています。

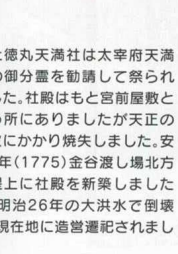


14. 道標(白牡丹街)

上徳神社前から南に向かうと三叉路に白牡丹方面を示す道標があります。金谷の渡しに通じる大事な街道でした。

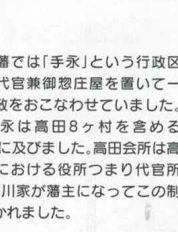
15. 上徳丸天満社

上徳丸天満社は太宰府天満宮の御分霊を勧請して祭られました。社殿はもと宮前屋敷と言ふ所でしたが天正の火災にかり焼失しました。安永3年(1775)金谷渡しまち北方の境上に社殿を新築しましたが、明治26年の大洪水で倒壊し、現在地に造営遷祀されました。



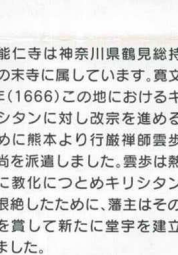
16. 高田会所跡

熊本藩では「手永」という行政区画に御代官兼御忍屋敷を置いて一切の民政をおこなっていました。高田手永は高田8ヶ村を管轄する24ヶ村に及びました。高田会所は高田手永における役所つまり代官所です。細川家が藩主になってこの制度が置かれました。



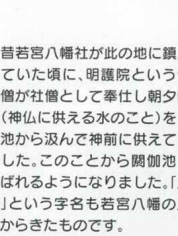
17. 瑞光山能仁寺(曹洞宗)

能仁寺は神奈川鳥居見総持寺の末寺に属しています。寛文5年(1666)この地におけるキリシタンに対し改宗を進めるために熊本より行儀禪師雲歩和尚を派遣しました。雲歩は熱心に教化につとめキリシタンを根絶したために、藩主はその功を賞して新たに堂宇を建立しました。



18. 関伽池

普若宮八幡社が此の地に鎮座していた頃に、明護院という修験僧が社僧として奉仕し朝夕開池(神仏に供える水のこと)をこの池から汲んで神前に供えていました。このことから関伽池と呼ばれるようになりました。「馬場」という字名も普若宮八幡の馬場からきたものです。



19. サブタ

集落中の道路両側の石垣に縦溝を切り、板をはめ込み流れてくる水を防ぎました。

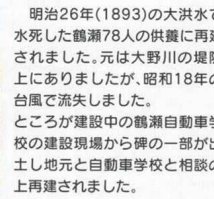
20. 宝塔様(堰隄碑)

堤防の決壊により田畑、家財を流失、又溺死した人々を思い悲しむ声を聞いた常仙寺住職日宣は、首藤道英、道達父子と語らい建立した、一字一石の法華塔です。(石の数は69,384個) 碑文は毛利空桑74才(明治3年1870)に撰したとある。



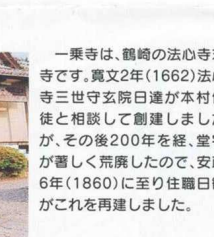
21. 水難慰霊碑

明治26年(1893)の大洪水で水死した鶴瀬78人の供養に再建されました。元は大野川の堤防上にありましたが、昭和18年の台風で流失しました。ところが建設中の鶴瀬自動車学校の建設現場から碑の一部が出土し地元と自動車学校と相談の上再建されました。



22. 開闢山一乗寺(日蓮宗)

一乗寺は、鶴崎の法心寺末寺です。寛文2年(1662)法心寺三世守玄院日蓮が本村信徒と相談して創建しましたが、その後200年を経、堂宇が著しく荒廃したので、安政6年(1860)に至り住職日歌がこれを再建しました。

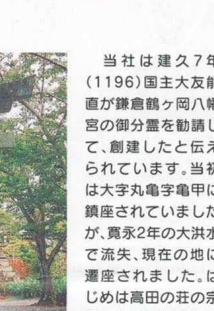


23. 道標

鶴瀬一乗寺から200mほど下ったところにある道標は大分や熊本、小倉、福岡までの距離、近くでは丸亀村、明治村までの距離が表示されています。明治の中期に建てられたもののようです。

24. 若宮八幡社

当社は建久7年(1196)国主大友能直が鎌倉鶴ヶ岡八幡宮の御分霊を勧請して、創建したといわれています。当初は大字丸亀字庵甲に鎮座されていたが、寛永2年の大洪水で流失し、現在の地に遷座されました。はじめは高田の荘の宗廟として尊崇されて

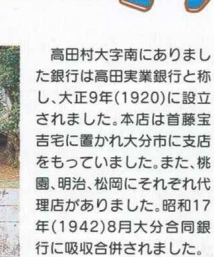


いきましたが、次第に範圍が狭小されついに高田村のみの氏神となりました。歴史ある氏神として高田地区の人々の信仰的、心のよりどころとなっています。※高田莊 城興寺の所有する莊園で、高田・鶴崎・三佐・桃園・別保・明治・日岡・東大分及び大分村宇志村・川添村宇志村・鶴村の1町9か村にわたる地域でこれを高田郷とも称していました。



25. 銀行跡

高田村大字南にありました銀行は高田実業銀行と称し、大正9年(1920)に設立されました。本店は首藤宝吉宅に置かれ大分市に支店をもっていました。また、桃園、明治、松岡にそれぞれ代理店がありました。昭和17年(1942)8月大分合同銀行に吸収合併されました。



26. クネ

各戸毎に櫻、むく等根の強い木を植え大木に育て洪水の際木に登り難をさげ又網で物や牛馬を繋ぎ流失を防ぎました。

27. 毛利空桑の墓



空桑は寛政9年(1797)大字常行に生まれました。臨蘭室、帆定万里など多くの學者に学び、また、いろいろな武芸にも励みほとんどが免許・番儀のうでまえていた。家塾知来館で育てた門人は1000人を超すといわれています。

28. 常行神社



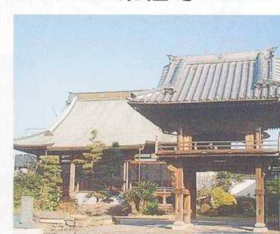
常行字井樋ノ口に鎮座する常行神社は、太宰府天満宮の御分霊を仲厚五兵衛という人が勧請したと云われています。元龜(1570~1572)のころには宇初穂田にあり広大な社地と3つの僧院を有していましたが、その後天正の火災にかり、万治(1658~1660)のころ現在地に遷座しました。

29. 知来館創設の地



毛利空桑が文政7年(1824)27歳のときに初めて私塾「知来館」を建てたところです。

30. 雲龍山常仙寺(日蓮宗)



常仙寺は日蓮宗京都本國寺の末寺で、正保元年(1643)高田の刀匠藤原行長の喜捨に基づき学泉院日泰が建立しました。当初は白頭山常仙寺といわれていたが、2世日長とき鶴崎法心寺3世日蓮と高寺一山の契約を結び山号を法心寺と同一の雲龍山を称するようになりました。

輪中

水難を防ぐため、1個又は数個の村落を堤防で囲み集落全体で水を防ぐ形を形成しているもの。(水防共同体) 高田地区は大野川と乙津川に囲まれた地域で高田輪中と云われ、又地形が琵琶の形をしているので別名琵琶の洲とも云われてきた。

輪中集落

昔は大野、乙津両川共に川幅も狭く堤防も規模が小さく度々洪水に見舞われ決壊、溢流を繰り返してきた。そのため各戸毎に高い石垣の上に家を建て、サブタ・クネ等が設置されていた。

輪中集落の洪水対策

高い石垣 洪水を避けるため高い石垣を築きその上に住居、倉庫を建てた。丸亀地区、常行の丸亀小路、關門の表小路に石垣が残っている。(但丸石は河原より、切り石は各個人で他より購入した模様)

洪水の記録

記録のある洪水は約70回あり、流家、溺死、家屋の損壊、埋没、流失、浸水等惨憺たる水との戦いであった。